

各 位

令和2年10月1日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



「スワンヒルの庭」に咲き誇る紫紅色と白色のセンニチコウ

センニチコウ(ヒユ科)

草丈50cm程の熱帯地方原産の1年草で、長い花茎を出しその先に1個の球状の花をつけます。詳しく見ると花は多数の小花が集まったものです。花は普通紫紅色ですが、白色や淡紅色もあります。名前「千日紅」の由来は花期が長く花の色が紫紅色だからです。花は乾燥させても色があせず長持ちするのでドライフラワーにも利用されます。

野草園もすっかり秋の気配となりました。園内の樹木の果実も見頃になり、ガマズミやカンボクの木にはたくさんの赤い果実がついています。

「スワンヒルの庭」では、紫紅色や白色の花のセンニチコウが咲き誇っています。その周りには、キバナコスモスやコスモスも群生しています。さらに、野草園の10月は秋真っ盛り、秋の草花と樹木の果実と紅葉が私達の目を楽しませてくれますので、是非ご家族でおいで下さい。

10月のイベント

◆野草園を会場にして開園以来初めての結婚式が開催されます

○日 時 10/10(土) 13:00~15:00

○場 所 野草の丘

◆10月10日(土)、11日(日)「家屋新築記念樹交付」10:00~15:00

新型コロナウイルス感染症対策のためドライブスルー方式で交付します。

◆第27回【野草園の魅力を探る写真コンテスト】入賞作品展

○日 時 10/17(土)~11/23(日) 9:00~16:30

○場 所 自然学習センター

◆◆◆10月前半に見られる主な花たちと樹木の果実◆◆◆



シュウメイギク(キンポウゲ科)

花弁のように見えるのは萼片で、花弁は退化しています。名は、秋に菊によく似た花をつけることにより。しかし、本種は菊の仲間ではなく、キンポウゲ科アネモネの仲間です。本来赤紫色の花ですが、白色の品種が多く栽培されるようになりました。



タイワンホトトギス(ユリ科)

沖縄県西表島、台湾などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さ30~50cmになります。和名は、斑点が入る花を、鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。本種はタイワンホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種と思われます。



リンドウ(リンドウ科)

草丈60cm程の多年草で、葉は対生し無柄で茎を抱きます。茎頂に数個の青紫色の5裂した鐘形の花を開きます。エゾリンドウが湿地に生えるのに対して、本種は山野に生えます。リンドウの根を乾燥したものは薬用にされ、漢方ではこれを竜胆(りゅうたん)と呼んでいます。それでリンドウにこの字を当てています。



エゾリンドウ(リンドウ科)

福井県以北の山地帯から亜高山帯の湿地帯に生える多年草です。茎の中程から上部の葉は対生、まれに3枚輪生します。青紫色の花は茎の先や葉の脇に付け、筒状鐘形で5裂します。切り花用に栽培され、さまざまな改良型がみられます。高山型で主として茎頂のみに花を付けるものをエゾオヤマリンドウといいます。



エゾオヤマリンドウ(リンドウ科)

エゾリンドウの高山型で、花は茎頂付近にしか付かないのが特徴です。登山道脇、高山の日当たりの良い草原などで見られます。天気が良く、陽光が一杯に当たっていないと開花しないという性質があり、開花しても花弁全体が開くことはありません。草丈は40~50cmです。



ヒガンバナ(ヒガンバナ科)

人里に近いところに群生する多年草です。鱗茎が地下にあり、線形の葉は花後に出て越冬し初夏に枯れてしまいます。秋になると花茎を立ち上げ赤い花を散形状に5～7個つけます。1つの花は6個の線形の花弁が大きく反り返り、1個の雌しべと6個の雄しべが花の外に突き出ています。ヒガンバナは秋の彼岸の頃に咲くので名がついたようです



ゴマナ(キク科)

山野の日当たりの良い所に生える多年草です。草丈が1～1.5mで茎や葉に細毛があり、触るとざらつきます。茎の上部で散房状に枝を分け、白い小菊のような花を多数付けます。白い花弁は舌状花で中心の黄色いところは筒状花です。名前は葉が“胡麻”の葉に似ているところからきているようです。



ノコンギク(キク科)

山野のいたるところに生える多年草で、地下茎を伸ばしてふえます。茎はよく枝分かかれし、短毛が密生し、葉も両面に短毛が生えざらつきます。花は、中心に黄色の筒状花が多数あり、まわりに淡青紫色の舌状花が1列に並びます。特に紫色の濃いものが選別されて、紺菊(ノコンギク)として観賞用に流通しています。



ヤクシソウ(キク科)

山野に普通に生える2年草です。葉は薄く基部で茎を抱き、切ると白い乳液を出します。枝先に多数の花を付けます。頭状花は全部黄色の舌状花からなり、花期が終わると下を向き、黒っぽい総苞と白い冠毛が目立ちます。名は葉の形が薬師如来の光背に似ることによると言われていますが、他の説もあります。



オオミソソバ(タデ科)

山地あるいは原野の水辺に生える1年草で、茎の上部は直立し下向きの刺があります。葉は有柄で互生し葉身はほこ形で、ミソソバより大きく、毛が多いようです。枝先に白色または淡紅色の小形花を数個つけます。葉の付け根部分にある托葉が目立ち、葉柄部分に翼があることでも見分けられます。



コスモス(キク科)

メキシコ原産で、観賞用として花壇などに植えられる1年草です。茎はまばらで直立し、葉は対生し2回羽状に分裂します。茎の上部に白色、淡紅色、深紅色などの花を開きます。頭花は周辺に8枚の舌状花が並び、これが花色を表します。中心部には黄色の筒状花が多数集まり結実します。コスモスは学名の属名そのままです。



キバナコスモス(キク科)

メキシコ原産の1年草です。コスモスの1種ですが花色は橙色や黄色などで、草丈は低め、花もコスモスより早い時期から咲き始めます。黄色の花を咲かせるコスモスの仲間なので、キバナコスモス(黄花コスモス)です。大正時代に渡来し、性質は丈夫で、真夏の炎天下でもめげることなく元気に育ち花を咲かせてくれます。



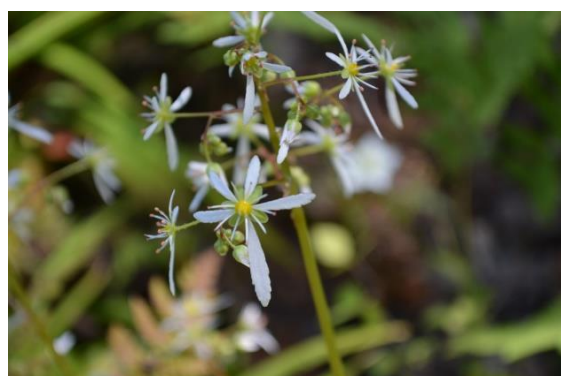
ミヤギノハギ(マメ科)

大人の背丈ほどになる落葉低木で、花は長さ1.5cm程になる紅紫色の蝶型花で、葉腋に多く付きます。枝が枝垂れているのが大きな特徴です。葉は三出複葉で、小葉は長さ3cm程の楕円形です。本種はケハギが園芸化されたものであるという説と、逆にケハギはミヤギノハギが野生化したものであるという説があります。



フジバカマ(キク科)

「秋の七草」の一つで草丈は1~1.5mになります。枝分かれした茎頂に淡紅紫色の頭花をたくさん付けます。頭花は5個の小花から成り、長い花柱の先は二つに分かれています。これが5つ集まるので糸状に見えるのです。渡り蝶「アサギマダラ」の数少ない吸蜜源ですが、10月に入ると飛来数は減少していきます。



ミヤマダイヤモンドソウ(ユキノシタ科)

湿気に富む岩地に生える多年生草本です。葉は長い柄があり腎円形で基部は普通心形となります。裏面は通常白味を帯びますがときに暗紅色のものもあります。掌状に浅く7裂し裂片には粗い鋸歯があります。白色の花を開き花弁は5枚、上の3枚は小さく下の2枚は長く、全体として大の字に似ています。



クサギの果実(シソ科)

日当たりの良い山野の林縁に生える落葉の小高木で、芳香のある白花を多数つけます。花の後、萼はこのようにきれいな濃紅色になり、深裂して星状に開き、中央に藍色の果実をつけます。まるで花のような果実です。花も果実も綺麗なのですが、名は「臭木」です。これは葉に臭気があるためつけられました。



カンボクの果実(ガマズミ科)

主に北日本の山地に生える落葉低木です。葉は3つに裂け、初夏に、白いガクアジサイのような両生花と装飾花の花を咲かせます。秋には、真っ赤な果実を多数付けます。とてもおいしそうに見えますが、つぶしてみると強い臭気があります。そのためか鳥も食べず、葉が落ちた後も、春まで実が残っています。



ガマズミの果実(ガマズミ科)

5～6月に白い小さい花の花序を作ります。今は赤い果実がたくさん付いています。最終的に晩秋の頃に表面に白っぽい粉をふき、この時期がもっとも美味しくなります。甘さはなくさわやかな酸味です。ジャムや果実酒に利用されるようです。



ナナカマドの果実(バラ科)

モミジ類やウルシ類とならび真っ赤な紅葉が美しい木のひとつです。小さな葉が羽のように並んで1枚の葉を構成する羽状複葉で、鮮やかな赤色に染まります。赤い果実は葉が緑色の頃からつけ、葉が落ちてからも枝に残ります。果実は、冬に鳥の餌となります。

山形市の木として制定されています。

ムラサキシキブの果実(シソ科)

山野の林内や林縁に生える落葉低木です。葉は対生で、形は長楕円形、先が尾状にとがり基部は狭いくさび形です。夏に淡紅色の小さい花をたくさんつけます。花も美しいですが、果実もまた、紫色でとても美しく見えます。果実は、葉が落ちた後も枝に長く残っています。

